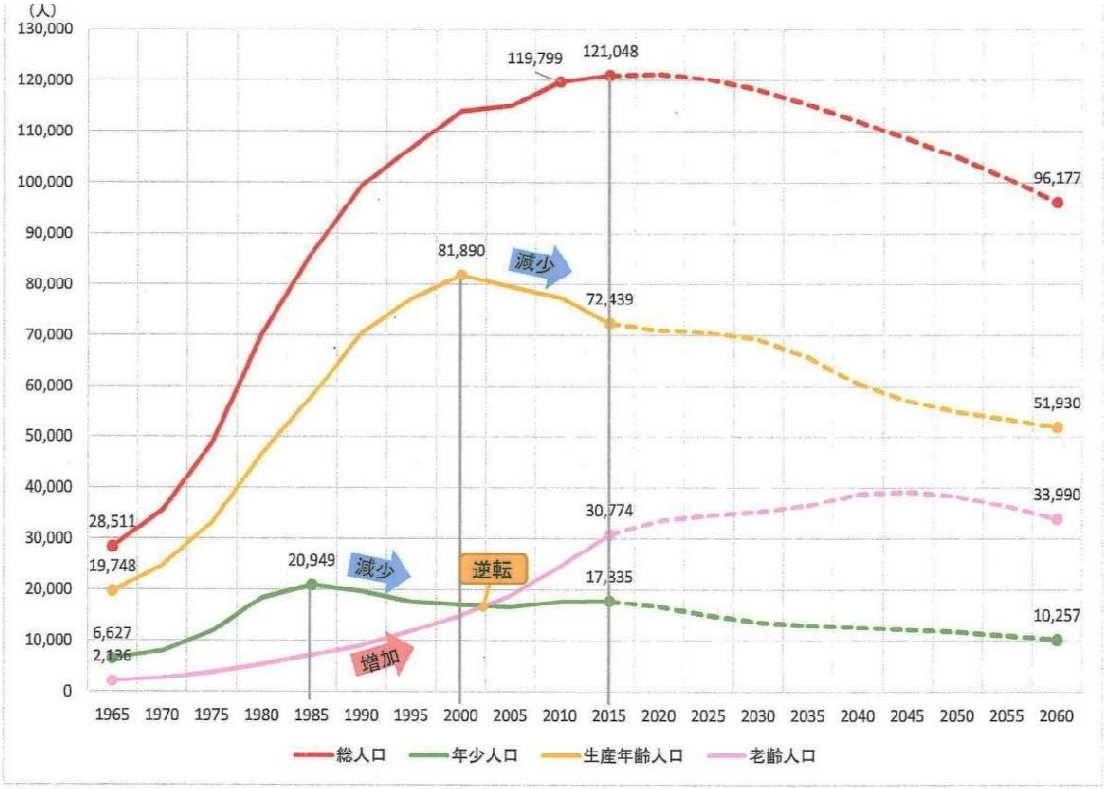
資料5

（4）高山地区第２工区の土地利用の方向性

②居住機能の導入について

②居住機能の導入について
1．生駒市の人口推移

年齢3区分別人口の推移と予測

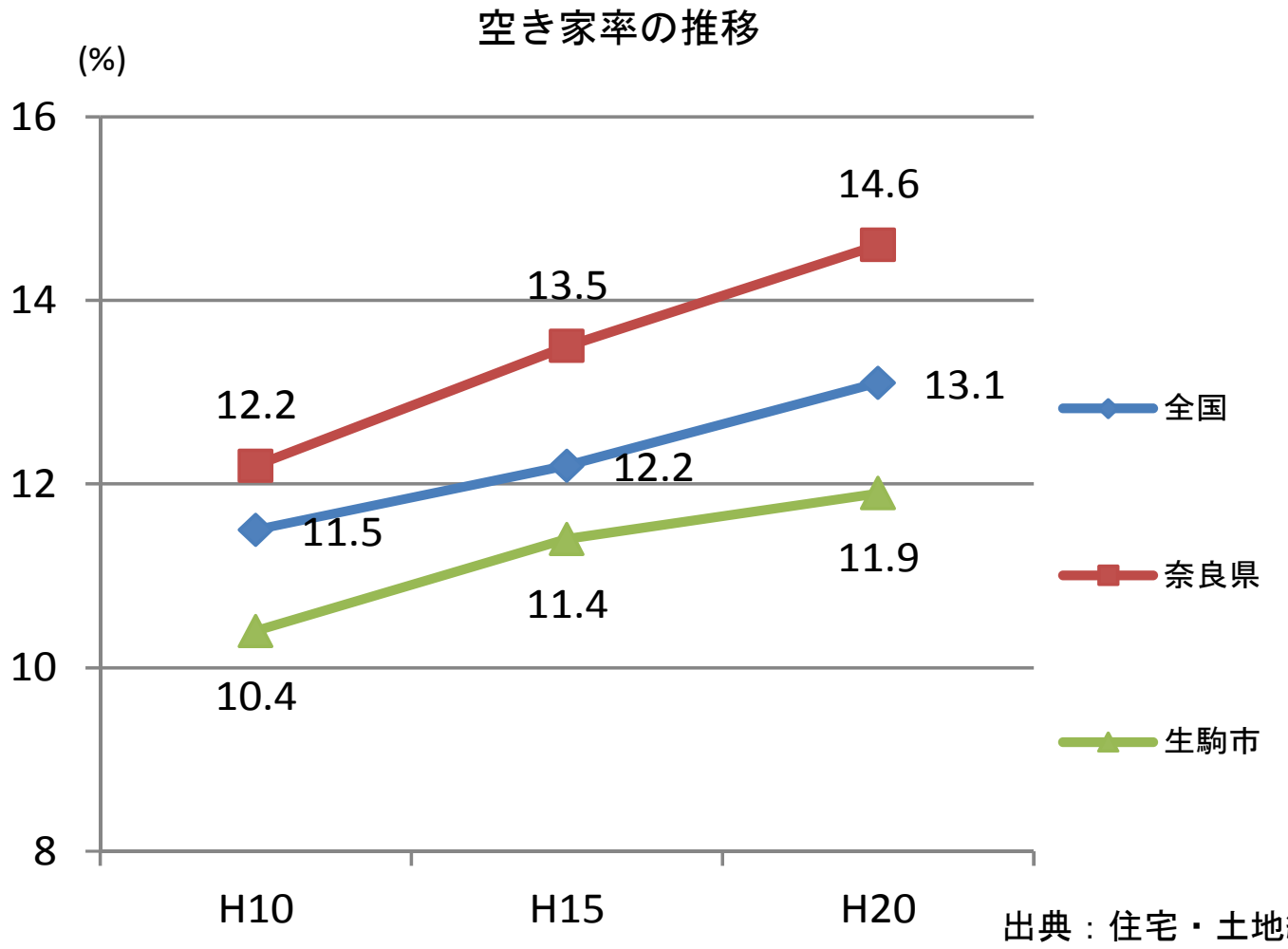


※総人口は年齢不詳を含むため、年齢3階層の合計と一致しない場合がある
(出典)2010年までの人口は国勢調査より作成、2015年は住民基本台帳より作成
2020年以降の人口は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(2013年3月推計)」より作成

- 生産年齢人口の減少が顕著な少子･高齢化の進行
- 現在多い30～40歳代の若い世代が将来は減少し年齢階層のバランスに変化が生じる見通し

出典：生駒市人口ビジョンH27.12

②居住機能の導入について
2．空き家率の推移



出典：住宅・土地統計調査

②　居住機能の導入のあり方（案）

- 人口減少、高齢化による空き家の増大が予測される中で、新たな大都市の受け皿としてのニュータウンは不要

- 権利者や学研都市で働く人の受け皿となる居住機能は必要

- 職住が近接し、子育てしやすい定住環境や次世代の暮らしを提案する「育児と仕事が両立」できるコンパクトな街のモデル的な形成を図る。

- 先端大や他の立地施設での研究成果を一般に先駆けて生活に活かしたスマートなライフスタイル。
  例えば、ＩＣＴ（環境、エネルギーマネジメント等）を活用したスマートシティなど